

# 高木陽春 × 小樽

TAKAGI HIHARU  
OTARU Photo Exhibition

## みち／ヒカリ

小樽の地形は海からすぐ山が反り立ち、大平原は無く、私の勝手な北の国のイメージとはかけ離れていました。はるか昔縄文時代の人々が息づき、近代では北のウォール街と呼ばれた小樽。ニシン漁で御殿が建てられ、巨大なりゾート施設も建設されました。オタモイの断崖絶壁に、現在も遺る龍宮閣跡地を眺め、人間について考えさせられました。ここ小樽で何かを残そうと生きた人々がいた。なぜ残す。

残るものと消えていくもの。そこには私という人間がいて、確かに共鳴する何かがありました。

これは私が歩いた小樽の記録であり、私の小樽がここにあります。

現在も、古い過去も未だ見ぬ未来も存在しているような、そんな異空世界が写っているように感じます。

高木陽春

小樽に生きる人と風土を見つめて

2025年 7.19 (土) — 10.12 (日)

立木義浩 (写真家)

彼が小樽全体を眺めて統一していこうと言う求心力ではなく、足を棒にしながら撮り続けた遠心力に脱帽です。

観覧料 一般 700(560)円/高校生・市内高齢者350(280)円  
中学生以下無料 ( ) 内は20名以上の団体料金  
※2階企画展示室、3階一原有徳記念ホールも併せてご覧いただけます。

会場 市立小樽美術館・1階中村善策記念ホール

休館日 毎週月曜日(7/21・8/11・9/15を除く)、  
7/22・23・8/12・13・9/16・17・24

開館時間 9:30-17:00 (入館は16:30)

主催：市立小樽美術館 協賛：市立小樽美術館協力会

後援：  おたる水族館



市立小樽美術館  
otaru city museum of art